

令和元年度 学校評価表（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）

白樺学園高等学校（全日制普通科）

基本方針	＜学園訓＞「公徳実践」：人として正しい考えを身につけ、人々のために尽くし、もって社会の発展に貢献する。	令和元年度 学校経営方針	達成度
		“Shirakaba 2020”～白樺最強化に向けたイメージチェンジ！ ○「スポーツの白樺」+「進学の巨人」=真の文武両道 ○難関大学突破 大学進学実績の向上 ○予備校との連携 ○偏差値39からの脱却 ○「知の拠点」として図書室のリニューアル	
教育目標	1. 確かな学力と感性豊かな心、強い体を持つ生徒の育成。 2. 社会の変化に対応し、逞しく生き抜く精神力を備えた生徒の育成。 3. 失敗を怖れず、何事にもチャレンジする意欲を持った生徒の育成。 4. 真の文武両道を目指す生徒の育成。 5. 明るく挨拶の出来る生徒、「ありがとう」と感謝の気持ちを素直に伝えられる生徒の育成。		十分に達成 4 概ね達成 3 やや不十分 2 不十分 1

自己評価					学校関係者評価				
分野	領域	評価項目	具体的方策	H30	R1	次年度への課題	H30	R1	意見・要望
学校運営	校務運営	1 学校運営方針の共通理解と協力的態勢の形成・実践。	校務運営委員会・各分掌・教科・学年会議は、目的を明確にして実施する。情報共有（ペーパー化）とICT機器を活用した（ペーパーレス化）。「チーム白樺」の組織力アップ。	2.5	2.3	●ペーパーレス化を目指しているならもっと会議でiPadを使った方がよい。●分掌の再編を考えると、校務運営委員会のメンバーである分掌部長などで仕事や、どうしてうまく学校がまわらないのか検証すべきだし、論議すべき。●校務運営委員会で十分に論議されないまま、職員会議が開かれているように感じる。●「チーム」を意識するのであれば、もっと現場の職員の意見を汲み入れるべきである。	3.3	2.7	●Classiを利用している諸連絡の反映に時間がかかっていた部分があった。 ●Classiのパスワードを忘れて見えない保護者がいる様なので、その対応が求められる。
	教員体制・働き方改革	2 教員の意識改革・サービスの遵守・適切な教員配置・実践的指導力の向上。	不祥事の未然防止、教員の服務規程遵守・職務意識の高揚を研修会や講習会等で図る。分掌業務内容や人員配置の見直し。部活動の在り方に関する方針の推進。	2.2	2.0	●教員等の人員不足が課題であると感じた。●事前に注意喚起等、未然に防ぐための施策がなされていた。●教員の意識を高めていかなければならない。教務主催の研修会への参加率もきわめて低い。●研修会を年間行事予定に入れるべき。●初めて職場代表者会議が設置されるなど、具体的に改革しようとする動きがあったが、服務等の法令を変更の検討内容が多くあり、理解を進める時間が足りない。	3.3	2.2	●教員の不祥事は、学校のイメージダウンに直結する。 ●教員不足の声が出ているが、教員の採用においてはきちんと見極める力も必要である。 ●教員間の忙しさに差があるのは不満の原因になると思う。適切な仕事の分担が必要
	学校改革	3 2020年教育改革を見据えた準備と取り組み。	学校教育目標の見直し、高大連携事業の推進。入試改革、新学習指導要領に向けた準備。	2.5	2.5	●新学習指導要領に向けて準備を進めていかなければいけない。●短大とのつながりという意味では、取り組んでいる。●焦ることなく、土台を固めてから進める必要がある。●パソコン室のリニューアルが必要。ライセンス切れ。●入試改革に敏感にならないといけない。●基礎学力を定着させることが当面の目標。	3.7	3.3	●白樺のイメージチェンジにつながる、教育改革に向けた取り組みがされているので期待しています。
学習指導	授業方法	4 授業方法の工夫・改善による理解できる授業の展開。主体的・対話的で深い学びの実現。	学年教科会議や成績会議による相互評価、研修・研究を推進する。AL型授業を積極的に取り入れ、意欲と理解度の向上を図る。	2.7	2.4	●AL型授業及びICT教育については教科によって差があり、教科別での実践例などを挙げて、教員研修が必要と感じられる。●すぐの解決は困難であるが、授業に關した生徒の姿勢・満足度は向上しない恐れがある。●方法論にかたよりにすぎている。目標をどこにするのかを明確にして、方法の多様性を尊重するべきである。●ICTの導入により、言語や板書では教授できない「動画」や「各々iPadを用いて調べる」等の教育をしている教員も多く見受けられ、生徒の想像力の向上も図られていた。	3.5	3.0	●熱心に解りやすく教えて頂ける先生もたくさんおられるので、今後も頑張ってください。また教員は学習指導が一番大切なので、部活指導同様にしっかりと行って頂きたい。
	基礎学力	5 基礎学力の定着を重視し、到達度の低い生徒に対する適切な取り組みを行う。	クラス分析・生徒個々の掌握・ICT機器を活用した教育の推進。わかる喜びを与え、やる気を醸成。	2.6	2.4	●ICTについては、もう少し活用の幅を広げられると感じる。●QUテストが活用されていない。●朝学習、学び直し等、熱心に取り組んでいるが、一部の先生の負担が非常に大きい。●基礎学力の定着に努める担当が増えてきた。全クラス当たり前の事として取り組めるようになりたい。	3.8	3.0	●朝学習や放課後、部活動後にも学習指導して頂く時間を作って頂き、進路担当の先生方は熱心です。
進路指導	調査・面談	6 進路希望調査の実施、個人面談・三者面談による生徒理解と分析。	担任・進路担当により、希望調査を踏まえた面談で進路対策指導を行う。	3.1	3.0	●進路の先生方には本当に頭が上がりません。それぐらいに手厚い進路指導だったと思う。●進路に関して1・2年から上級学校の見学など実施は良いが、個人親の進路意欲は課題と感じられる。個人、生徒一人一人の進路サポート・ケアが必要。●学級担任が積極的に面談を実施するのが基本。進路指導部任せになりがちに思える。	3.3	3.2	●特に意見・要望なし
	進路分析	7 就職先・進学先についての情報の蓄積と共有。	一人ひとりに適切な情報提供。企業訪問・大学訪問・受験報告等の情報分析を行い学年単位で情報を共有する。	3.0	3.0	●企業・学校訪問の成果・報告についてはなされておらず、全教員に情報が回っていない、目的・成果を報告すべき。●基礎力診断テストはやりっぱなしになっているので、授業内で振り返りを行う必要がある。また、生徒たちによる気持をさせるために、定期テストと同じレベルで評価に入れるべきである。	3.7	3.5	●特に意見・要望なし
	職業観育成	8 生徒の職業観・進路意識の育成。	各種セミナー、講習、インターンシップ等の取組の量的・質的向上を図る。	2.8	3.0	●行うのは構わないが、少し授業にかぶりすぎではないか。長期休みや放課後などに実施時期を工夫すべき。●進路指導部員が少なすぎるため、1・2年生のキャリア教育の時間が作れない。	3.8	3.7	●特に意見・要望なし
	推進力の強化	9 3年間を見据えた進路計画の設定と実施。推進力を発揮し各学年をリード。	進路に対する早期の意識づけと取り組み。(Enageed・ポートフォリオ・白樺力タリバ)	2.4	2.3	●既存の「物」を利用するのもよいが、頼りにしすぎないで、生で生徒と向き合っていきたい。●Enageed→金額と実態の折り合いがつかない。素晴らしいものであることは解るが、教員側の準備が困難。●生徒の学力・レベルを教職員間で共有し、1・2年次から指導、声掛けが必要と思う。	3.7	3.3	●特に意見・要望なし
行事の充実	生徒会行事	10 自発的、自治的な組織活動の指導。	執行部と各委員会並びにHRとの連携、HR活動の活性化・仲間作りに発展する行事の取組みを行う。	2.6	2.2	●進路や他分掌との連携をしっかりと、LHR計画を年間で作るべきだ。●生徒会と各委員会、HRの連携はなかなかできておらず、活性化はしていないと思う。●教員発信だけではなく、生徒からも全校生徒が校則を理解し、遵守できるように促すと思う。その役割が生徒会にもある。	4.0	3.2	●特に意見・要望なし
	学校行事	11 愛校心・道徳心・社会性・公共性・安全性等を育む行事づくり。	目的・狙いに対して適切な手立てや工夫をこらした行事を追求する。	2.7	2.2	●全校応援など一体化されるものも有って良い。●今の学校行事で道徳心・社会性は育まれない。もう少し工夫するところがあると思う。●自治活動としての位置づけを、生徒も教員も学んでいく必要がある。●各クラスから選出する委員の出る幕がほぼ皆無になってしまっている。新しい取組が必要。	3.8	3.2	●一教員の意見だけではなく、周りの意見もきちんと聞いたうえで対応が望ましい。

自己評価						学校関係者評価				
分野	領域	評価項目	具体的方策	H30	R1	次年度への課題	H30	R1	意見・要望	
いじめ防止対策	方針の立案	12	いじめに対応する方針内容の確認ならびに見直し。	いじめ防止対策のための方針内容を適宜見直しを図り、それを教職員及び生徒・保護者に周知する。(HPに掲載)	3.0	3.0	●いじめ防止対策については、指導部中心にもっと細かく内容を決めていかなければいけない。●生徒会を利用して、生徒からも呼びかけが必要。●周知はしているが、見直しはしていないのではないか。●教員も入れ替わり、再度確認の意味を含め、再度周知が必要なのではないか。	3.8	3.7	●特に意見・要望なし
	防止対策の組織化	13	いじめ防止対策委員会を中心とした組織的な取り組み。	いじめ認知の共通理解と情報共有により、未然防止・早期発見・早期解決を全教職員による組織的な取り組み。	3.0	2.9	●教頭が主となり、担任とよく連携を図っていると感じる。●ナイーブなところなのかもしれないが、もっと担任と教科担任で情報共有していきたい。●表立たいじめはなかなか見えてこないが、それだけ見えないところでのいじめが気になる状況。常に生徒と真剣に向き合う姿勢をもつことが必要。	3.8	3.5	●特に意見・要望なし
	防止対策	14	教職員といじめ防止対策委員会との連携・情報収集の重視。調査の有効活用。	いじめ調査、QUTテストの定期的な調査実施と有効活用。防止対策を担う組織(防止対策委員会)の機能的な取り組み。	3.0	2.8	●いじめアンケートや職員会議にて情報の共有や共通理解ができていた。●QUTテストは実施から結果開示までの時間の開きがあり、即時学級経営に生かせられない問題がある。●生徒にも一年に一度でも良いので啓蒙する機会を、全校集会などの場で設けるべきではないか。	3.7	3.3	●特に意見・要望なし
生徒指導	指導体制	15	全教員が方針のもとに、一貫性を持った指導体制。生徒・保護者との信頼関係の構築。	社会のルール・モラルを守る態度の育成に努め、全教員並びに学年団の組織力で一貫した指導を行う。(ぶれない指導)	2.5	2.2	●教員によって指導に違いがある。全く一貫していない。●授業規律ができていないことが、教科会議でも問題になったが、生活指導部と教務部が一体となり、指導すべきかと思う。●指導部通信は定期的に発行してもらうことで、一貫した指導にもつながる。	3.2	2.7	●特に意見・要望なし
	規範意識	16	実社会で通用する人間性の教育。挨拶の励行と、場面に応じた正しい言葉遣いの指導。	教員の意識改善(生徒との接し方)。挨拶・身だしなみ・遅刻防止等の全教員による日常的な生徒指導。問題行動を防止するための啓蒙。	2.5	2.1	●冬になると制服での登校は限界があると思うので、健康管理を配慮した規則にした方がよい。●挨拶はほぼ出来ているが、服装は厳しい指導が必要。●教員間の言葉から正していく。●教員の服装が乱れていることが、生徒の身だしなみの乱れにつながっているように思えなくもない。	3.5	3.0	●特に意見・要望なし
	生活指導	17	校則に基づいた頭髪指導、服装指導、集団への帰属意識。	毎月の全校集会での頭髪服装検査へ向けての事前指導と事後指導の実施。	2.8	2.3	●頭髪服装検査以外の時間でも指導をしていく必要がある。生徒は検査を通れば良いと思っている。●ツーブロックや髪の色、スカートの丈など方針会議の内容が全く理解されていないように感じる。●事前指導は校内的に何も行われていない。	4.0	3.2	●特に意見・要望なし
	安全指導	18	登下校時の自転車運転マナーと盗難防止。ネット関連・薬物等の事故未然防止のための啓蒙。	交通安全指導、自転車の2重施錠の指導。青少年問題に関する特別講演の実施。危機管理意識の向上。(教室の施錠等)	2.4	2.2	●未然防止がなされていない。●玄関指導・駐輪場指導・駐輪場点検など、定期的かつ組織的な取り組みにはなっていないのでは。●自転車盗難防止のため、監視カメラ設置か駐輪場の場所を職員室から見える場所に変更したほうがよいと思う。●交通安全指導に立つ機会がなくなっている。	3.5	2.8	●学校の出入口と駐輪場には監視カメラがあった方が、生徒が安心して過ごせるのではないのでしょうか。
	生徒支援	19	要支援委員会、教育相談室、家庭との連携、公的支援団体との連携、研修。	担任と要支援委員会との連携並びに生徒への支援対策と教育相談員による生徒支援。家庭連絡・訪問の実施。高生連・生指連等との連携・研修参加。	3.1	2.7	●相談員は親身に対応してくれ、救われている生徒が多い。●養護教諭のサポートがかなり大きい。●女子生徒の悩み相談を開ける女性教諭が不足しているので、女性教諭の増員が必要。●生指連・高生連などの研修で現場に有用と思われる内容をもっと還元・報告してほしい。	3.8	3.8	●特に意見・要望なし
環境施設	保健・美化	20	学校の美化・衛生面の充実と生徒の健康。省エネ・エコの取組と生徒指導。	日常的な清掃活動での美化意識。厚生部・生徒会厚生委員会やPTA施設部を含め、HR単位での美化・衛生・エコに取り組む。	2.5	2.7	●休日の部活動による教室の汚れ、ゴミに対する対応が必要。●美化意識が低すぎる教室が多い。行事・イベントの前のみでは無く、日常的な指導を改善すべき。●省エネは全くできていないと思う。●ゴミステーション担当の先生の指導により、美化意識が生まれているように思える。●公務補さんにはいつも感謝しています。教員の意識の向上が必要。	3.5	3.3	●特に意見・要望なし
	施設・設備	21	学習環境の充実・施設・設備の点検・補充。学校バス路線拡充。	分掌・教科・担任での点検を行うと共に、生徒への公共心を養う。学校バス路線拡充による効果と影響力。図書室のリニューアルに向けた準備。	3.0	2.3	●図書館のリニューアルの準備が遅れているので、急ぎたい。●札内までのバス路線の拡充が行われたが、拡充とは反対にドライバー不足で一部外部委託となってしまう。廃止するとより立地条件の厳しさが浮き彫りになるため、適切な運行の継続が必要。●パソコン室ライセンス切れによるリニューアルが必要である。	3.7	3.5	●特に意見・要望なし
地域との連携	開かれた学校づくり	22	本校の校舎施設を地域に開放し、地域貢献に努める。	トレーニング室・体育館・グラウンドの運動施設、特別教室など依頼に応じて開放する。中学生対象の学び直し教室、女子サッカースクールへの取り組み。	3.2	3.2	●女子サッカースクールの取り組みが新聞で取り上げられるなどした。進学・教養コースの女子サッカー部員もよくやっているようなので、継続を。貸し出し情報はClassiで知らせてもらっても良いと思う。●開かれた学校づくりで少年団に武道場を貸しているが、時に本校柔道部が練習を途中で引き上げなければならない問題が生じているので、影響が出ないように調整が必要。	4.0	3.3	●学校開放により、白樺の生徒に不利益が生じているのではないかと素晴らしい施設を開放する事は良いが、まずは生徒を一番に考えてはどうか。
	連携・協力	23	地域の教育行政、各種文化団体、ボランティア団体等との協力・連携。	芽室町・帯広市の教育行政や、地域の要請に対して可能なものは協力的に連携を図る。	3.2	3.0	●芽室町と姉妹都市提携を締結しているトレーシー市と高校生が交換留学制度を設けてもらえるように来年度も引き続きお願いしたい。次年度は芽室町役場の商工観光課・商工振興系と連携を取り、インターンシップ実施について協力関係を築いていきたい。	3.8	3.5	●特に意見・要望なし
	情報公開	24	本校の教育実践や成果をHPや広報誌等で積極的に発信する。	本校ホームページ・PTA便り・体文ニュース・各分掌からの通信の内容充実。	3.7	3.6	●HPは頻りに更新されており、閲覧者も多いと思うので、継続を。●白樺のイメージが少しずつ変わってきているのは、このような努力の賜物である。●体育文化後援会ニュースの様に、進路・生活指導・教務から何らかの発信・発行物がClassi投稿されても良いのでは。	4.0	4.0	●ホームページは頻りに更新されていて写真も多く、良いと思う。
総体評価	実践目標	25	すべての生徒が楽しく有意義な高校生活を送ることができるように、親切・丁寧な指導と褒めて伸ばす教育を実践する。	教育目標を達成すべく、教職員がそれぞれの持ち場で工夫・努力する。	2.6	2.8	●生徒に対し、できるところで、できる限りの指導を發揮しきれていない。●生徒が楽しく学校生活を送るためには働く教職員のモチベーションが大切。●適切な教員数にすること。●変化が求められる状況の中では、特に持ち時間数を減らし、生徒に親切、丁寧に対応できるようにする必要がある。	3.5	2.8	●特に意見・要望なし
	学校評価	26	学校評価におけるPDCAマネジメントサイクルの機能化と情報公開。	自己・関係者・第三者による評価と課題を明確化し、次年度へつなぐ。評価結果を公開(HPを含む)する。	2.9	2.8	●HPへの公開を維持している。また手間のかかることにも関わらず、学校評価の取り組みを継続している。●Classiで授業動画を公開して保護者に評価してもらえばいいと思う。	3.8	3.3	●特に意見・要望なし
平均				2.9	2.6		平均	3.7	3.2	

学校評価アンケート結果(生徒・保護者)及び自己評価委員会のまとめ	
保護者アンケートの回収状況は昨年度も例年に比べ悪く56%であったが、今年度は昨年度とほぼ同様に回収状況(54%)が悪く、形骸化してきている。アンケートの時期や回収方法、質問項目も含め改善の必要性を感じる。保護者からの要望として多かった項目は進路に関するもので、進路を決めて行く上での情報提供や資料の充実、早い時期(1年次)からの進路への動機付けとなる取り組みがあげられる。また学校スクールバスへの意見要望も多くあった。本校への進学を決めた理由の一つにスクールバスの利点を考えた部分もあったが、特に今年度は運転手不足から運行のスタートが遅れるという事態が生じ、学校の対応の遅れや不便さを感じている保護者が多くいた。運転手確保が不可欠である。また子供たちが有意義な学校生活を送っていることへの感謝の言葉も頂いているので、一人一人が生き生きと安心して生活できる学校づくりに努めていきたい。自己評価のまとめについては、特に次年度への課題としての重点項目を記載したものである。	
【学習指導:授業方法】 ・ICT機器の有効活用と推進、授業方法の改善。 ・2020年教育改革・新学習指導要領へ向けた具体的な準備と取り組み。	ICT機器の有効活用とICT教育の推進という点では、教科の違いはあるが昨年と比較すると進んできている。だが新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにとられた臨時休校時を含め、今以上にICT機器を有効活用した授業の改善が急がれる。AI型授業・協同学習を実践している教員が増えている。今後も基礎学力定着と学力アップを意識した指導を実践して行きたい。全教員の共通理解のもと、本校でどの様な生徒を育てるのか教育目標・教育方針の検討と作成が急がれる。カリキュラム委員会やワーキンググループを中心に2022年度より実施の新学習指導要領に伴うカリキュラムの再考と取り組みが急がれる。学力アップと学び直しによる基礎学力定着は教員の指導力も問われる。校内外の研究会、研修会へ積極的に参加し、指導力を向上させるうえで学習指導法の研修に努め実践して行く。
【生徒指導:指導体制】 ・いじめ未然防止ならび対策と組織的対応の継続。 ・要支援生徒への組織的対策と対応の継続。 ・生徒指導の不平等さの改善。 ・安全教育と危機管理の強化。	本校では今年度も、いじめに関して重大事案につながる事案は無かった。しかしSNS上での問題は表に出にくく、今後も定期的ないじめアンケート調査や情報共有しながら些細な事案についても聞き取りや調査を行い、早期発見・早期解決につなげて行く。いじめ防止対策委員会を中心に組織的な動きは前進しているので、今後も取り組みを継続する。今年度もQUTテストについては、結果が届くのが遅く、既に状況が変わっている等、有効活用できない。別な物への変更も含め検討が必要である。要支援委員会も適宜会議を行い、組織的に対応した。担任と養護教諭や教育相談員との話し合いの場を多く持つ事が大切である。生活指導では、生活指導部まかせの指導、教員間の意識のずれによる生徒指導の不平等さから一貫性を欠き、生徒・保護者も戸惑いを感じている。この課題は毎年出てくる事が問題である。全教員の意識を高める事が必要不可欠である。自転車の事故件数は18件と前年度より多く、骨折等の大きな怪我も有りマナーを含め、安全教育の徹底が必要。生徒自身の危機管理も大切であるが、生徒・保護者・教員からも防犯カメラの設置の要望が強い。
【学校運営:意識改革・服務遵守。進路指導】 ・業務内容の見直し。 ・正教員の増員要望。 ・教員の意識改革。 ・働き方改革の推進。 ・進路指導の組織的な取り組み	分掌間、教員間で業務量に大きな差を感じている。分掌業務の質・量両面からの見直しや改善、適切な仕事分担も必要であるが、正教員の人数の少なさから分掌業務への影響が出ている。正教員の増員を強く要望したい。働き方改革の推進では職場代表者を中心に、本校における課題の解決を進めるという点では前進した。教員の服装や勤務時間遵守を含め、教員間の無関心・相互不干渉からの意識改革と職務意識の改善が必要。体罰や不祥事の防止についての研修を継続して行う。進路指導においては、進路指導部まかせにならない組織的な指導が必要である。生徒・保護者・担任との連携、情報共有ならびに進路希望に応じた情報提供が大切である。学年団として二者面談、三者面談の実施。1年次からの進路への動機、意識づけとなる取り組みが必要不可欠である。2020年大学入試改革へ向けた、ポートフォリオやClassiの取り組みは、今後より一層学校全体として積極的な取り組みが必要である。
※新年度の分掌業務・学級経営や教科指導ならびに部活指導に学校評価を反映させるよう、お願い致します！	

学校関係者評価委員会のまとめ	
【学校運営】 教員増員と不祥事の防止	教員不足による影響もあるのか、教員間の忙しさに差が出ているようなので、適切な仕事分担や教員の増員をお願いしたい。教員の不祥事は学校のイメージダウンに直結するので、高い規範意識を持ちながら未然防止に努めて頂きたい。
【学習指導】 教員の授業改善・意識改善と進路決定につながる適切な指導	多くの教員に授業の工夫や熱心な指導を感じる。朝学習や放課後も学習指導をして下さり、その事が進路結果にもつながっている。文武両道の精神を大切にしながら、生徒の理解度や満足度を高めるように授業改善や意識改善を今後もお願いしたい。
【安全指導・学校環境】 安全教育の徹底と学校環境改善	安全教育という点では交通ルールや自転車に乗る時のマナーの指導が必要と感じる。事故にあってから、加害者側になってからでは遅いので安全教育の徹底をお願いしたい。また生徒自身の危機管理や2重施錠の習慣も大切である。それに加え駐輪場に防犯カメラがあると、より安心して生活できるので、是非設置をお願いしたい。

第三者評価委員会のまとめ	
【学校改革】 学校評価を活かした組織的な取り組み	自己評価の意見や次年度の課題が今年度も、不満を書くだけのものとなっている内容が多く見られる。学校評価の本来の目的は評価結果に基づき、課題や反省を活かし、どのようにしたら改善できるのか具体的な意見を出し、改善して行く事にある。そしてその取り組みは組織的に行われなければならない。
【学校運営】 私学白樺の特色ある教育	全国的に普及してきているICT機器を管内で一早く導入し、ICT教育に力を入れている。更にもその教育を充実させ、社会・地域にも貢献できるような人材の育成に期待したい。また今年度はスポーツの白樺という意味ではバスケット部のインターハイ出場やスケート部・ホッケー部のインターハイ優勝をはじめ、各部の活躍は素晴らしかったので、今後の活躍も期待している。選抜甲子園大会が中止となり、本当に残念である。野球のみならず新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各競技の大会の中止による生徒、保護者、先生のケアをお願いしたい。生徒達の挨拶は清々しい気持ちになるので、今後も是非続けてほしい。
【開かれた学校づくり】 交流の場としての学校開放	昨年度、学校長から提案のあった子育て悩み共有サロンが実施されなかった事は残念である。目的として子育ての事や日常的に悩みを抱えている保護者同士が気軽に交流やコミュニケーションが取れる場として学校を開放して行く事の実現に今後も期待したい。